錦友

一吟徹心霊
一曲能興国

錦友…第313号
〈令和5年4月20日〉
・編集・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
・発行・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
東京都港区麻布十番2-4-14
電話:東京03-5484-3301(代)
〒106-0045

令和4年度
第二回指導者講習研修会

日時：令和5年3月2日(木)～3日(金)

会場：福岡県春日市「クローバープラザ」クローバーホール

令和5年3月2日（木）～3日(金)、福岡県春日市の「クローバープラザ」のクローバーホールに於いて、第二回指導者講習研修会が開催されました。

開会の前に、宗家より、この度、城戸城濤先生の宗範昇格のご紹介があり、続いて、吟詠の発表に入りました。見学者を含め、百八十名を超える申し込みがあり、それぞれが独吟・連吟を披露しました。

まず、福岡県の加藤城勲総師範の開会の辞で始まりました。

3月2日は、87題の吟と、当日、宗家のご指名で、会場にいらしていた福岡県の佐々木城行先生の和歌のご披露がありました。佐々木先生は、御年百歳ということですが、素晴らしい吟をご披露くださいました。松岡錦章総師範の閉会の辞で、この日の発表を終了し、場所を移動して、久しぶりの懇親会が行われました。

3日は、朝9時から2日目の吟詠発表が行われました。小川錦鈴総師範の開会の辞に続いて、65題の吟が披露されました。

すべての吟の発表が終了後、宗家の講評があり、東本錦怜総師範の閉会の辞で吟詠の発表はすべて終了しました。

宗家の講評より

今回の発表で全体的に感じたことをお伝えします。

邦楽というのは散文ではなく、律文です。律文には、「間」があります。「おはようございます」は、「おは○よう○ござ○い○ます」と歌わないといけませんが、「おはようございます」と早く読んでしまいます。漢詩も、若い人達の読み方は早いです。漢詩も日本語で詩にしてあります。皆さん、日本の伝統的な音律の文章というのは、ご存じでしょう。七五調なんです。昔は和歌と言いました。今は短歌と言いますが、俳句、都々逸もそうです。これは、律文になっているんです。ですから、日本人の心に訴えるのです。読んだだけで心が伝わるというのが律文の読み方です。

ところが、皆さんは散文で詩吟を歌っています。ですから、三文字をまとめてしまっています。「おはよう」は、律文で読むと「おは○よう」と言います。「たぬ○き」と読みます。「たぬき」と読んだらダメです。「きつね」と読んだらダメです。「きつ○ねが○ひと○を○ばか○す」と「間」があります。

日本語は「あいうえお」一文字は、一音なんです。ところが、吃音というのがあり、これは、二文字なんです。「がっこう」の「が」という字、これは二文字の間隔です。「がっ○こう」と読みます。今日歌った人の中にも、三文字を、さっさと読んでしまった人がいっぱいいます。三文字は必ず二文字読んで間を取って三文字目、それが徹底していないと。二文字目の間が感情の表現になっています。それをくっつけたら感情の表現が無くなってしまうわけですから。

私が書いた「邦楽における語りと間（日本語のリズム）」という本を読んで欲しい。皆さん、読む勉強もしてください。そうすると、詩吟の読み方が凄く上になります。皆さん、読み方が下手です。富士山も「せんかく」ではなく、「せん○かく○きた○り○あそ○ぶ」と読まないといけない。間があるでしょ、この間のところが、感情の表現をする場所です。それを、詰めてしまって早いです。私は、これから先、これを皆さんに勉強して欲しいと思います。

「二音の環」という言葉があります。日本語は、すべて二音で出来ています。二音の環という日本語の原則を守ってください。これを守らないから、表現が下手なんです。節で表現ではなく、言葉の読みの中で表現するのです。「かな○しい」、「うれ○しい」と二音の環なのです。日本語を上手になって欲しい。そうすると感じも表現力も豊になるということです。

◇新宗範の紹介◇

雅号　県名　取得年月
城戸城濤（茨城県）　5・2

宗範を拝受して

城戸城濤先生

この度、令和5年2月1日付を以て、宗家より錦城流宗範の允許を賜り、責任の重さを痛感しております。

思い返せば、昭和35年、大学入学と同時に正式入門してより63年の月日が経ち、よくも続いたものと改めて感慨深いものがございます。

全ては、錦城流の魅力と良き仲間に恵まれた賜物と、出会いの大切さを痛感しております。

今後、どれ位お役に立てるか分かりませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◇新総師範の紹介◇

雅号　県名　取得年月
西山城与（滋賀県）　4・12

滋賀県本部湖東地区吟詠大会「彦根支部六十五周年記念吟詠大会」を終えて

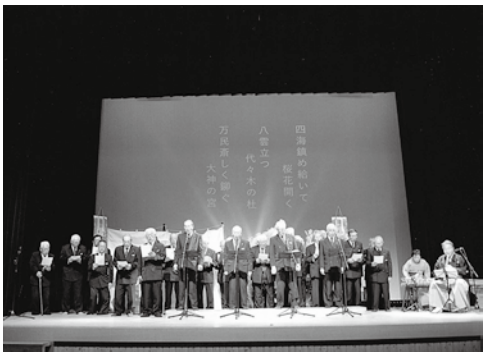
風光に恵まれた琵琶湖と彦根の城は、今も変わらぬ、流祖山元錦城先生と故山本城嶽先生との出会いが、錦城会彦根支部の歴史であります。

この度、彦根支部発足65周年記念と併せて令和4年12月4日、彦根市みずほ文化センターに於いて開催されました。

今大会には、錦城流宗家・山元錦城先生をはじめ、錦城会会長・城戸城濤先生、詩舞道宗家・本村緑崇先生、その他各先生の賛助出演をいただきました。

堀川城怨大会会長の開会の挨拶のあと、詩舞「宝船」と、プログラムは彦根色を加えた盛り沢山の特別番組に取組みました。

一方、舞台発表が困難な会員にも観覧席を設けるなど全会員参加を目指し、結果、一八〇名が参加しました。



宗家先生の労作「企画吟　心を映す月の詩」13詩、また「企画吟　母を憶う詩」では、和歌や新体詩、中長歌など7詩の詩を吟じました。

詩文は、投影により表示されたことで、良くわかったと客席からも好評でした。舞台も一段と映えた感動の数々でした。

滋賀県本部長　林錦枝先生から

滋賀県、中でも彦根の長い歴史を思うとき、一人でも多くの方にお声かけをして会員の増強に努力することが急務の課題です。また、「詩吟は健康の源」です。今後、生涯の友として詩吟を続けて、滋賀県の錦城会を盛り上げて参りましょうと、お言葉を頂きました。

詩吟朗詠錦城会会長　城戸城濤先生からは、

彦根支部で初演され全国各地に広がり吟じられた、名詩「殉国華」が発表されたとき、舞台と会員が一体となり感動の渦となった時のように、多くの人に感動を与える錦城流の吟詠と、仲間達を絶やすことなく、彦根支部を更に発展させようと、力強い励ましのお言葉を頂きました。

プログラムの最後、男性32名によるによる特別番組「詩吟物語明治維新の暁鐘」は、難しい詩文もありますが、心に残る吟声で、とても感激したとの声をいただきました。

大会終了後、懇親会が開催され、最初に宗家先生が元気に登壇されました。

宗家・山元錦城先生のおことば要旨

琵吟物語「名残の盃（石田三成）」では琵琶の熱演で城戸先生、堀川先生、詩舞で三成の苦悶の心情を演じられた本村先生のご尽力を称えられました。

続いて優れた多くの先輩や先生に恵まれた湖東・彦根の皆様にと、「会員増強の目標を加えて運動を展開しよう」とご提案があり、一緒に詩吟をと知人に勧める時「三度の声かけ運動」を提唱されました。

乾杯に寄せて、宗範・本村錦香先生のお言葉を頂きました。色々な目標を掲げての大会、成功おめでとう。発足時からの情熱は、今の皆さまに受け継がれていると思います。と結ばれ、皆そろって杯を上げました。

（彦根支部　土田城江）

新入会員の紹介（1／6～3／20）

新宿支部　内田美惠
福山松浜支部　鶴田　潔　石井一成　坂本直美　佐々木俊明
鹿児島支部　菊永政廣　梅原麻弥
品川支部　吉井　瞳　江連裕之
練馬支部　南雲力三
大宰府道場　内空閑奈美　土井麻生
大津支部　中畑勝治
盛岡支部　長内淑雄
気仙沼支部　村上文子
米原支部　桂田貴子　福井弘子
台東道場　西野　光
佐久道場　佐藤良昭　小久保広宣　小久保布美子
水戸支部　金子裕一
名古屋中川支部　坪井　巌

◇新師範の紹介◇

雅号	県名	取得年月
佐々木城岩	（岩手県）	4・11
住岡城雄	（広島都）	4・11
吉井城憲	（広島県）	4・11
対馬城博	（広島県）	4・11
馬渕錦千	（滋賀県）	5・1
星　錦翔	（福島県）	5・3
鶴田錦和	（東京都）	5・3
五十嵐錦幸	（神奈川県）	5・3
斎藤城虎	（神奈川県）	5・3

◆催事のご案内◆（令和5年4月～6年3月）

◆本会主催　◇本会後援

◇**詩舞道錦城流第13回全国大会**
・4月27日（木）
・開催地　鹿児島県鹿児島市
◇**滋賀県本部55周年記念大会**
・5月28日（日）
・滋賀県彦根市
◇**福岡県3支部3道場合同公開発表会**
・5月28日（日）
・福岡県春日市
◆**令和5年度定時総会・第一回指導者講習・研修会**
・6月22日（木）～23日（金）
・静岡県熱海市
◆**詩吟全国大会**
・10月8日（日）
・滋賀県彦根市
◇**茨城県本部60周年記念大会**
・10月29日（日）
・茨城県水戸市
◇**吟道の碑前祭**
・11月26日（日）

本部の動き（4・11・2より 5・3・10まで）

12月2日　常務理事会
4日　滋賀県本部湖東地区吟詠大会（彦根支部発足65周年記念）
1月14日　理事会
1月28日　福島県本部の講習研修会と昇格審査
3月1日　大分県本部の講習研修会と昇格審査
2日～3日　第二回指導者講習研修会

◇組織体長の変更◇

吉井支部（長崎）　支部長　吉永城仙
福岡南支部（福岡）　支部長　中仮屋錦歌
広島東支部（広島）　支部長　頼実城北
牛田東道場（広島）　道場長　坂本城孝
双盤講保存会吟詠部（東京）　吟詠部長　藤本誠子
呉支部（広島）　支部長　中田錦良
唐津道場（佐賀）　道場長　村山城進
石山支部（滋賀）　支部長　杉田錦瑛

お詫びと訂正

錦友312号（前号）の（6）頁2段目、左から4行目の「地元井上賢吾県議会議員」は、「井上順吾」様の間違いでした。お詫びし訂正いたします。（S）

「錦城会ホームページ、リニューアル公開！」

今までのホームページの内容やデザインを新しくしたホームページを作成しました。
今度のホームページは、パソコンだけでなく、スマートフォンでも見やすいように作られています。ぜひ一度チェックしてみてください。

https://kinjoukai.or.jp/

スマホでのトップページ

パソコンでのトップページ

QRコード

錦青“北から南から”

一般社団法人詩吟朗詠錦城会
青　年　部　通　信
【復刻版】　2023. 4. 20

青年部の歴史　「詩吟朗詠錦城会五十年史」の土師城皓氏の記述より抜粋

青年部は、若い会員自らの発案による「青年層会員の結束をしたい」という要望に対し、流祖のご理解が得られ、会として「次代を担う若者の育成」を目的に、昭和 44 年、総本部の文化部内の一機関として設立された。　当時、青年部員とは、30 歳以下の会員が対象だった。直ぐに都県本部のうち東京が中心となり、神奈川、福島等も青年部活動を開始した。特に、初代青年部長の草嶺城輝氏の時、広島県の旧海軍兵学校「江田島」における第一回青年部吟行会は、青年部を全国に発信した画期的な催しであった。これを機に都道府県本部も徐々に本部内に青年部が組織されるようになり、合わせて青年部の年齢も 35 歳以下を対象とするようになった。

錦青のシンボルマーク

昭和 48 年、総本部の正式な独立機関として「青年部」が承認され、初代の全国青年部長として土師城皓が就任した。会に於ける青年部活動は、「次代を担う若者」の結束を第一に、「親睦融和」をモットーに展開した。

まず、全国の青年部員が一堂に会す「第一回青年部全国大会」を昭和 50 年、東京にて開催、次いで、長崎、滋賀、鹿児島、神奈川、大阪、広島で開催された。

また、平成 14 年には、同様の趣旨で道南において「青年部フォーラム in 函館」と銘打ち、全国規模で開催した。さらに、全国大会と各年開催を目標に、史跡・文化・歴史を探訪する「全国青年部吟行会」も、愛知、神奈川、福島、道南、東京、広島、大阪で開催し、部員の親睦融和に貢献した。

この長い歴史の中で、全国青年部長も二代目に神奈川の上原城寛氏、以下滋賀の土田城紘氏、神奈川の佐藤錦杲氏、長崎の故山内錦菖氏、東京の竹内城絃氏と代わり、この間に、青年部の年齢制限も 40 歳、そして現在の 45 歳まで引き上げられた。

☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆

この度、一回限りの「青年部通信　錦青〝北から南から〟」を錦友の中に復刻版として発行させていただくことになりました。かつて、錦城会の青年部員は、お互いに活発な活動・交流をしていました。現在、会員数が減少し、それに伴って、青年部と言われる年代も激減しています。全国規模の青年部活動をご存じない青年部の方、その当時、錦城会にまだ入会されていなかった盛年部（？）の皆様方にも、当時の青年部の活動を知っていただき、現在の青年部員の皆様へエールを送り、OB・OG は、いつでも応援しているという気持ちをお届けいたしたく、一度だけの復刻版「錦青“北から南から”」を発行し、かつての青年部の活動等を紹介することにしました。私の手元にある最後の錦青は、平成 17 年 10 月発行の No. 40 号、その 2 号前の No. 38 号は、現役の全国青年部長だった山内錦菖さんの追悼号でした。

（編集担当　佐藤錦杲）

元全国青年部長（3 代目）

滋賀県本部　土田城紘

錦青“北から南から”は、私が全国青年部長としてのデビューとなった平成５年８月の広島県江田島吟行会を無事終えた翌年、滋賀県大津市に於いて開催した全国青年部長会議で青年部通信の発行を提案、タイトルを募集したところ、北海道道央本部の大友城賢部長の「錦青　北から南」が最有力候補となり、全国津々浦々から通信をということで「北から南から」に決定したことを昨日の事のように思い出します。

当時全国には 800 名程の青年部会員がおり、青年部長会議や錦青紙面の情報により刺激を受け、新たな企画も生まれたりしました。中でも、隣県本部青年部によるブロックでの交流事業が中部ブロック以外に九州や関東ブロックでも発表会や吟行会が催されるなど、青年部会員の交流機会が増えることで錦青紙面も充実していったように思います。

手書きの原稿を貼り合わせた紙面の錦青№１、その後はワープロからパソコン紙面へと変化、丁度、携帯電話やパソコンの普及時期と重なりＩＴ化の波と共に青年部会員の置かれる環境も変化してきました。紙面での情報よりスマホからの情報量が圧倒的に多い人達にどのように声かけをするか。「詩吟の教室に顔を出して」ではなく、「ユーチューブで錦城流の詩吟を聴いて」の方が今の時代有効かなと。

滋賀県においても青年部は休眠状態の中、どう組織を復活させるか難しい課題です。ミニ発表会を計画し、ＳＮＳを使ってＰＲするとか。30 年前には想像し得なかった事態に対し、今の青年達にどのようにして詩吟の楽しさを理解してもらうか。多くの仲間と理解ある先輩先生方に恵まれた青年部活動で得た貴重な経験や財産をお裾分けする義務が私達にはある。そんな気持ちは皆さんお持ちでないですか？錦青復刻版の一回限りでなく、これを機に何かしら生まれることを期待しています。

今年は滋賀県彦根市で全国大会が開催されますので、是非ご来県ください。青年部・青年部ＯＢの皆様と語り合う機会になればと楽しみにしています。

北海道・東北ブロック

「次代の担い手の青年部」

道南本部　竹内錦鈴

青年部？この言葉すら久しく目にも耳にもしなくなった気がしてならない！流祖ご健在の頃、先輩たちが「次代の担い手」を流祖のお言葉として、若い年代層が口々に、そして活動的に燃えていた事が思いだされます。

昭和 54 年 1 月、当時、道南本部が設立されていなく、「函館支部青年部発会式」が行われ、当時の全国青年部長・土師城皓先生もご出席の予定が、吹雪の為、函館空港着陸不能で、千歳空港より JR にて夜遅くにご来函、翌日の函館支部初吟会にご臨席賜りました。宗家先生より青年部に対しての暖かい激励のお言葉と土師部長からは、青年部同士が親しく交わる中から、吟を通し、青年部活動を通して「次代の担い手」となって欲しいとのご挨拶を頂いたことが今だに脳裏に焼き付いています。

その時の青年部長は、35 歳という制限の中で該当した私が部長を仰せつかっていました。吟行会・練声会・物資斡旋活動など多彩な行事を行うたびに、師範、一般会員、子供を含めた青年部員と毎回 100 名近い参加者を記憶しています。特に、55 年に福島県で開催された「第 4 回全国青年部吟行会」には、1 年前より積み立てを始め、23 人が深夜の青函連絡船 4 時間→青森駅から平駅 6 時間半、全員初めての参加。結果、当時の高橋城信函館支部長の統率力とお人柄にふれ、以後の行事、活動には多くの方々のご協力を得、35 歳で引退しても、次々と後継の部長が決まりました。

そんな時期もあって、その活動は永遠に続くものと信じて止まなかった筈が、いつの間にか青年部が消え？あの楽しかった思いをもう一度と考えつつも、現代の状況諸々と自分も含め会員の年齢層、雪国北海道の交通状況を考え、不安が膨らむ昨今です。明るい将来展望への文章に纏めることが出来ず、心苦しく思いつつ･･･。

「青年部フォーラム in 函館」　　道南本部　竹内城泉

錦青　復刻版をご覧の皆様、お久しぶりです。道南本部・前青年部長の竹内城泉です。この度の『錦青　北から南から　復刻版』の発行を大変嬉しく思っております。

道南本部では、青年部という組織がまだあり、現在の青年部長は、松井錦恵さんが担っております。私は相談役という立場で、機会があれば、お手伝いをさせて頂いております。青年部活動と言えることは、ほぼできてはいませんが、昨年の 10 月には少年会員である竹内光汰君が、北海道から青森まで遠征し、詩吟を発表する機会を頂きました。在籍する青年部員は 3 名となっております。

部長時代には、毎年各県本部で行われた青年部長会議に出席させて頂き、大変勉強をさせて頂きました。全国大会や総会に毎年のように参加できなかった私にとって、年一度の青年部長会議は、全国の吟友と語り合えるとても貴重な時間でした。各地で開催された会議では、色々と思い出があります。歓迎されることがほとんどでしたが、中には開催地の役員の方から『こんな無駄な会議をやるくらいなら、ほかにやることがあるだろう』と叱咤されたこともありました。中でも一番思い出に残っているのが、平成 13 年に東京での全国大会の後に開催された会議です。私は就任１年目で初めて出席した会議でした。その頃は、各地の青年部長の世代交代が相次ぎ、現部長と次期部長の２名で参加される方が多く、各地の部長の年齢層が若くなったと記憶しております。

その東京での会議において、毎年開催の全国青年部長会議と隔年開催の全国大会・吟行会を一緒に行う初めての試みである『仮称・フォーラム』の開催地が北海道・函館に決まりました。次年度の部長会議の開催地に立候補するだけのつもりだったのですが・・・。初めて出席した会議で戸惑っている私に、宗家から『函館は元青年部長のお父ちゃんお母ちゃんがいるから大丈夫だよ』との言葉を頂き、話はあっという間に進んでいきました。その後、錦青でのアンケートや意見を交わす中、その催しが【青年部フォーラム in 函館】というネーミングになりました。

青年部フォーラム in 函館（H14. 6 月 8 日～9 日）

平成 14 年に開催された【青年部フォーラム in 函館】の時は、全国の多くの青年部の方や会員の方にお越しいただき、20 年経った今でも大変嬉しく思っております。改めてこの書面をお借りし、感謝を申し上げます。その後もフォーラムが引続き、宮城県や愛知県で開催されたことは、大変嬉しく思っており、フォーラムの最初の一歩が道南本部・函館であったことは大変光栄に思っております。

全国年部発足時の流祖・山元錦城先生の青年部に対する思いは、私が会員になる前から両親より聞いています。この度の復刻版では、各地の歴代の青年部長の先生方も御寄稿されるようなので、大変楽しみにしております。会員数も少なくなり、若い世代の会員はもっと少ない現況ですが、伝統文化の普及・継承に少しでも役立てる様、今後共、吟道・剣舞道に精進したいと思っております。この復刻版が、早く手元に届きます様、心よりお待ちしております。

青年部フォーラム in みやぎ（H18.　7 月 15 日～16 日）

関東ブロック

「青年部活動を振り返り改めて思う」　　神奈川県本部　佐藤城孝

青年部長経験者に対する記事投稿の要請受けて、先ず思い出したのは流祖山元錦城先生の言葉です。

「今後の錦城流・錦城会が未来永劫に継続して行く為には、貴方がたのような若い力が必要です。お互いに連携をとって、青年部活動を活発にしてください。」と熱く語られた流祖の想いを今も忘れることはございません。小生だけではなく全国の青年部長は同じ思いをされたと推測いたしております。そして流祖の言葉を忘れられないからこそ錦城流を続け錦城会の運営に携わっておられると信じております。

青年部長会議に同席された丸山城壮宗範（当時は総師範）は、流祖の強い決意を悟られて、「神奈川県から青年部活動を発信しよう。」とおっしゃったのです。それ以降は、何かと言えば丸山宗範は「青年部は何をしたいんだ！」と声をかけられ、県本部行事の手伝いをさせていただきました。

その中でも、先輩吟詠発表会（現在は大寿吟詠発表会に名称を変更）の進行、司会、そして茶話会の準備を青年部が担当しました。発表会が終了すると、茶話会で詩吟を始めたきっかけや詩吟をやって良かったことなどを話していただきました。ある時、心臓に持病を持つ先輩が「詩吟を続けたお陰で元気になれた、医者は大きな声は身体に悪いと言うが、私は詩吟が好きで止められない」と、とても嬉しそうに話してくださったのを覚えています。

宗家先生の指導を受けるようになって、先輩の話を思い出して宗家先生にお話をしたところ、「正しい発声をすれば、心臓にも良い影響を与えるのは間違いない」とのことでした。先輩は詩吟を続けて健康維持を実感なさっていたことを改めて知ることができました。小生も改めて健康維持と生きがいのため詩吟は続けたいと思いました。

また投稿の要請を受け、久ぶりにふるいアルバムを開いてみました。流祖を中心に総本部で記念撮影した写真に写っているメンバーを見て、流祖の想いが現在に繋がっていると思いました。17 名いる中で、現在総本部や県本部で元気に運営に携わっている方が 8 名写っていました。亡くなられた方や休会された方以外は総本部の役員や県本部長を担っている方ばかりでした。

神奈川県本部では、定年退職後に詩吟を始める会員（師範）が多いです。しかし、入会された会員はご自分の意思で詩吟を始めたので、コロナ禍であっても退会や休会する会員は殆どございません。

錦城流の将来を考えると、若い会員を勧誘しなければ流祖が唱えられた錦城流・錦城会が未来永劫に継承することはできません。昔の古き良き時代を思い出して色々な行事を企画して、周囲の若い人が関心を持つようなことをしなければならないと思っています。

全国には学ぶべき県本部がありますので、その活動を参考にさせていただきます。そしてアンテナを張って詩吟に繋がる催しはないか、或いは自分たちだけが楽しむのではなく、来場者にも楽しんでいただくような企画をして、その中から一人でいいから入会者が出てくれることを願いたいと思います。

詩吟を発表できる機会を作って、錦城流・錦城会を知っていただくことで新しい入会者が生まれると信じます。そして新たな入会者を大切にすることは勿論ですが、休会した師範、退会した会員にも温習会や発表会の案内を出して再入会を誘導する行動を起こしたいと思います。

「青年部活動を振り返って」　　東京都本部　菊池錦郷

師範会長から「次の青年部長は貴女だから、協力するから」と選択の余地のないスタートでした。その後、師範会で、ある師範から「詩吟の集まりですから、遊び中心にならないように」と。さてさて家庭の事情で今まで青年部の活動に不参加だった私は、覚悟をしなければとの思いで始まったのです。

都本部の行事の中に青年部吟詠の場を作って頂き、青年部員の把握の為に、先ずは名簿作りに取り掛かり 25 名程の一覧になりました。師範行事の出吟依頼を出しましたが、回答は三分の一以下でした。この現実が歴代の青年部長のご苦労と重なりました。

それから青年部を認知して貰う、予算を 10 万円頂いていることもあり、総会で会計報告並びに活動報告をすることにしました。活動については、毎年吟行会で歴史の学びや献吟を行い、都本部とは　**（次頁へ続く）**

別日に流祖墓参をした後で、温習会を兼ねて行いました。ボランティアは短時間という時間制約があり、一度しか実現できませんでした。吟行会は、下見をして時間配分をして、当日は班編成して、OB、OG の多大な協力を得ながら遂行出来ましたが、青年部員の参加は、四分の一が良い程度で、青年部の活動として良いのかとの声が聞かれたことは残念に感じています。

青年部に該当する時期が 45 才迄となっていることで、一般的に働き盛りで責任ある立場になる頃で、なかなか活発にとは難しいと思います。人によっては、多くの趣味の一つで、特に多様化している今日では、長年詩吟を愛してきた者との思いのギャップが生まれます。纏めていく者は、それなりに時間も、持ち出しも、苦労もありますが、それ以上に参加された方々が笑顔で帰られ、和やかな輪を感じた時、喜びで疲れはなくなります。残念ながら行動を共にした後輩は、後を立ちきる結果になり、残念でなりませんが、青年が成年でも OB、OG を巻き込んで、もう一度認知して貰えるように切望いたします。

「詩吟を習って」　　茨城県本部　井坂城鳳

私が詩吟をはじめたのは、社会人 2 年目（今からもう 40 年ほど前）のことでした。それまでも、大学生の頃から、水戸の実家に帰省するたびに、母親からほぼ強制的に、それこそ、もうお経を唱えるように勧められ、半ば辟易としていたため、アルバイトにかこつけて、盆暮れ正月にも帰省せずにいた年もありました。

しかし、始めて見ると、これがなかなか居心地よく、最近まで続けることができました。これまでの中で、一番思い出に残っているのは、10 年ほど前に茨城県内で毎年開かれる吟士権コンクールで優賞したこと、ビクターのコンクールで関東大会優勝、全国大会 4 位入賞したことです。

また、これからのコンクールや温習会などで、舞台度胸がついたのか、あるいは年相応になったのか、仕事や家庭（？）でも妙に度胸が据わってしまった今現在の自分がここにいるような気がします。

中部ブロック

「熱海吟寮での全国青年部長会議とその後」　　愛知県本部　鍛治錦代

私が初めて全国青年部長会議に参加したのは、昭和 50 年頃だと思います。当時の全国青年部長・土師城皓さんの呼びかけで、北海道から鹿児島までの青年部長 10 名位が、当時、錦城会の会員だった布施さんの別荘「熱海吟寮」で 2 日間にわたり、それぞれの青年部活動の様子を発表し合うというものでした。

初参加の私は、とても緊張していると、そこに流祖・山元錦城先生がいらっしゃり、ご挨拶の後に「会の前に一吟お聞きしましょう。」とおっしゃって一人一人の吟を黙って聴いてくださいました。無我夢中で吟じたことを、今でもはっきり覚えています。それまでレコードや全国大会で流祖の吟をお聴きするだけでしたので、この経験は私にとって素晴らしい思い出となりました。

そして、全国各地の青年部活動の様子をお聞きし、早速、愛知でも本部長の箕浦錦静先生に相談して、予算化をしていただき「青年部全国大会」や「吟行会」などの多くの仲間と共に参加させていただきました。

特に鹿児島での大会の翌日の知覧への吟行会は、印象的でした。当時の記念館は、小さな公民館の様な建物で、外には、かなり傷んだ本物のゼロ戦が置かれており、中に入ると、特攻で散って行かれた方々の遺品、壁には辞世の句が掲示されていました。涙の流れを止めることができませんでした。

その後も、神奈川、福島の大会や吟行会に参加したり、中部ブロック（滋賀・大阪・愛知）の吟行会を行って、友情を深め合う事が出来ました。

現在は、若い会員の方も少なく、お互いの交流もままならない事でしょうが、なんとか若い方々を育てていきたいものです。

「青年部活動の思い出」　滋賀県本部　氏王城旡

当時の支部長「石塚錦睦先生」より「支部内だけではダメ、地区へ出て勉強しなさい」と言われ、湖南地区へ勉強に行く機会を与えていただきました。それが、私が青年部に関わるスタートとなりました。

湖南地区にも思い出が沢山ありますが、一番の思い出は、何といっても「中国」への文化交流です。現地でのハプニング、日本だと汽車は時間通りに出発するものと思っていましたが、何分経っても出発しません。目的地に行けるのかと、イライラした事が何回あったことか。また、観光バスのスピードメーターが動いていないので運転手に尋ねてみると、それが中国では当たり前の様に答え、高速料金で「昨日の料金と違う」と喧嘩したり、とにかく、日本では考えられない事が頻繁にありました。ホテルでの夕食会に現地の青年は、ダンス（舞踊）を、我々日本から、各会員が詩吟を披露して和やかな時間を過ごしました。後で聞いたことですが、交流会参加の中国の青年の年齢は、19 才から 25 才だったそうです。

全国の青年部活動では、北は北海道から南は鹿児島まで、各県の青年部長が集まり、各県持ち回りで青年部長会議と青年部大会が開催できるほど部員もたくさんおり、活気づいた活動が出来ておりました。でも、年々青年部会員が減少し（新入会員が少なく、卒業する会員が多くなった）、会議のテーマは何時でも若い会員をどのように増やしていくか、「インターネットで呼び掛けていく」、「職場での若者を無理やり入れる」など過激な発言も出たほどでした。

でも、最終的には、今いる我々が活動を充実させて行くところで落ち着く、そんな内容が多かったように記憶をしております。青年の吟詠を聞くと、若さに溢れ、素晴らしかった事をはっきり覚えています。魅力のある詩吟の世界をこれからも充実させて頂けるよう願っております。

「青年部活動を振り返って」　滋賀県本部　奥村城志

滋賀・湖南地区では、あの当時、支部が 17 程ありました。各支部全てに青年部長がいたわけではありませんが、概ねの支部に、部長・副部長がいました。毎年のように各支部の記念大会が催され、1 年に 2 回 3 回と、記念大会へ青年部が出演依頼を受け、参加していました。

私も湖南地区の青年部長として、記念大会、初吟会に参加させて頂きました。あの当時、1 月初めは本家、能登川支部、その後 2 月中旬まで各支部の初吟会に参加させていただきました。比較的新しい支部では、懇親会に会員の皆さんが、手料理を持ち寄って歓迎して下さったことが今も忘れられません。

各記念大会では、男子 2 題、女子 2 題の律詩を連吟する事が多く、別室また屋外で発声練習をし、お互いに競い合った所もありました。その事が今となっては、青年部に育てて頂いたと思っています。

また、愛知県・滋賀県・大阪府の青年部の交流も活発で、当番制で吟行会を実施していました。半分程は忘れたかも知れませんが、部分的には、しっかりと覚えています。湖南地区青年部・中国吟行会も 3 度実施、5 月の連休に 3 泊 4 日で懐かしい思い出となりました。あの当時の青年部、青年部長は、現在は、各々の支部の支部長または理事長になっています。

私たちも、後継者発掘に努力はしましたが、現在のような形になるとは全く思っていませんでした。何が原因なのか、言える事は、先ず学業の時間に漢詩・漢文の授業が無くなったことではないでしょうか？生活様式の変化、スマホ・パソコンの普及が、かもしれません。マイナス思考ばかりではなく、前向きな心で、吟道は一つの声学として、これからも頑張って行こうと思います。

H5.5 月　滋賀県湖南地区青年部
中国吟行会

九州ブロック

「福岡県本部青年部活動を振り返って」　　福岡県本部　東本錦怜

福岡県本部青年部活動を「福岡県本部 35 年、50 年の記念誌年表」から活動を写し出しました。

私、東本が入会当初は、青年がズラリと詩吟をお稽古していました。その教室に近所の当時雅号の年配夫人に誘われて行き、その稽古場で聴いた吟に鳥肌が立ち、即入会。3 カ月後に、宗家（流祖）を迎えての温習会があり、全員独吟を聴いて下さり、最後に講評とご指導あり、その試験台に、流祖から「そこのあなた、前に」と私にご指名があり、「太田道灌」を指導されました。入会 3 カ月の身ですので、宗家の偉大さとか、恐さ知らずだったと回顧しています。

それから 4 年近く経た頃、内弟子に来ないかとの打診が、安部城豊先生を通してあり、考慮の末、「自己投資をしよう」と答えを出し、職業も捨て上京し、修行が始まる人生。流祖とのご縁があったらばこその今の自分がある、と・・・。歳月を重ねる程に感謝あるのみの現在です。

昭和 60 年の「福岡県本部青年部大会」開催の頃、当時の県の青年部は、二百数十名、県本部の会員数の 2 割を占めており、東本錦怜が福岡県青年部長、続いて小川錦鈴、久保江城匠、田中錦麗花となりました。東本の前に、もう早くに退会されている東郷さんも青年部長をしていたように記憶がありますが、その頃は、青年部旅行（吟行会を兼ね）をしている筈ですが、年表には記録がありません。（悪しからず）

福岡県本部青年部

S60. 7.28	福岡県本部青年部大会（福岡市婦人会館）
H2. 7. 8	〃青年部温習会
H3. 9. 8	〃青年部吟行会（岡垣町）
H4. 8. 2	〃温習会（福岡キャビンホール）

「若かりし青年部時代を思い起こして」　　福岡県本部　小川錦怜

私が福岡県本部青年部長を務めさせていただいたのは、平成元年、35 歳の時から、平成 7 年までの 6 年間です。古い資料をひもとき、当時の気持ちに舞い戻り、久しぶりに若返りました。

就任して間もない 4 月 1 日、第 13 回全国青年部長会議が錦城会熱海吟寮で行われました。その時の緊張感は、今だにはっきり覚えています。各県の積極的な活動報告には、練声会、他県との合同吟行会、ソフトボール大会、老人ホーム慰問などの発表があり、強い刺激を受けたことが思い出されます。

戻ってから、早々の 5 月 27 日、代表者会議を開き、活動協力の依頼と心機一転、皆で頑張りましょうとお願いをし、連絡体制を考慮して、28 支部・道場を 4 ブロックに分けて、早速名簿作りに取り組みました。

スタートとして、8 月 20 日、初めての吟行会築城町史跡巡り、寒田牧之原キャンプ場での合吟、地元会員の皆さんに協力していただいての楽しかった「ソーメン流し」。それから毎年一度は、青年部の行事を行っていきました。平成 3 年 9 月 8 日、岡垣町東部体育館でのレクレーション大会、ユーモアな競争ゲーム、仮装行列、フォークダンス、心を一つにして触れ合うことが出来ました。

温習会では、平成 6 年 9 月 11 日、八幡東区レインボールホールでの開催で、詩舞、書道吟、華道吟、空手吟など、特別な企画構成で行いました。青年部員の若さのパワーで頑張る事が出来たのだと今でも思っています。

当時は会員数も多く、県本部会員数約 1,200 名、その中で青年部員数約 150 名でした。現在は、時流の流れとともに大幅に減少しています。今はただこれを諦めることなく、自分に出来ることを先ず、身近な友人に声をかけ、出会いを大切にして、一人でも仲間を増やしていきたいものです。私も古希を迎え、もう一頑張りしたいと思っています。

「 同世代の方々との横のつながりを大切に」　福岡県本部　田中錦嶺花

30 代で入会した私は、青年部長を仰せつかった当初は、まだ吟歴も浅く、全国の青年部長さん達を前に、圧倒される思いでした。青年部長会議や大会に参加、機関誌「錦青」への投稿を通して、全国には、こんなに青年部員がいるということに感動しながら、みなさんの熱意や行動力に惹かれていきました。

また、県内では「青年部会員名簿の更新」に取り組みました。お稽古の場は違えども、全国に錦友の存在を知れたこと、仲間もでき、交流できたことを幸せに思います。お世話になった皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、青年部世代の皆さんは、お仕事や子育てなど人生の中で大変忙しい時期を過ごしておられることと思います。お稽古の時間を捻出するのも大変な時もあるかと思います。私も、例にもれず、一度休会をいたしました。その後、担当師範の先生、青年部のメンバーの方々から呼び掛けていただき、再入会し現在に至っています。発表会や会議に参加し、顔を合わせてつながりを持つと、益々詩吟が楽しくなります。

青年部世代の皆さんには、是非、同世代の方々と横のつながりをさらに広げて、全国から若い感性を発信して、錦城会の発展とご自身の成長につなげていただきたいと思います。

第10回青年部全国大会
平成12年5月14日
長崎県佐世保市体育文化館
コミュニティホール

「青年部活動の思い出」　鹿児島県本部　國生城庵

早いもので、あれからもう 40 数年が経ちました。その頃、全国的に青年部結成の動きがあり、「國生さん、あなたが鹿児島県本部の青年部長をなさい」との本部長・本村錦香先生の鶴の一声。

さて、どんな風にまとめて行こうか、川内支部青年部長の森山城鳥氏、出水支部青年部長の角城禅氏と 3 人、私の家で話し合いをすることにしました。「そんときゃ、ちっとずつ、畑を売いもんそかい。」森山氏の一言で大笑いのうちに 3 人の心がまとまったことを思い出します。

そして、昭和 51 年 8 月 1 日、岩崎谷荘で、一般の会員さんにもご参加いただき、盛大に鹿児島県本部青年部結成大会を開催することが出来ました。案ずるより産むが易しというか、腹さえ決まれば何とかなるものです。ちなみに、結成大会は、奇しくも第 4 回山元錦城リサイタルが鹿児島県文化センターで開催された年でした。

「青春とは心の若さである。心に若さがある者は青年である」をモットーに、先ずは、県青年部の存在を位置づけ、地に着いた活動をと、ゆっくりとではありますが、確かな一歩を踏み出しました。青年部の名簿作成に始まり、青年部総会、温習会、練声会、そして会員増強のためのアンケート調査、文集「城山」の発行などを行いました。

翌 52 年 9 月 24 日、流祖山元錦城先生がお亡くなりになられた時、私達青年部は、吹上町みどり荘で、一泊の総会を兼ねた詩吟研修会を行っておりました。そして、25 日朝、流祖の悲報に接した時、（**次頁に続く**）

一同黙祷を捧げ、涙ながらに追悼の詩を一人ずつ吟じ解散しました。流祖が病魔と闘っておられた時、私たちは詩吟の研修の場をもっていたということが、せめてもの救いに感じられてなりません。

中でも思い出に残るのは、伊集院支部の皆さんや、伊集院支部青年部長の本坊城輝氏の協力を得て、秋の爽やかな空のもと、「妙円寺詣り」の行事、宗家先生もご一緒に参加して頂き、一般会員を含め40人余り、錦城会の旗をかかげ、詩を吟じ、妙円寺詣りの歌を歌いながら歩いたことです。美味しかった本村先生の手作りのおにぎり。目的地の伊集院徳重神社での奉納吟。この「妙円寺詣り」というのは、鹿児島三大行事のひとつで、関ケ原の決戦を記念して鹿児島から伊集院までの20キロを歩くというものです。

そして、発足5年目、昭和56年8月23日、青年部4回全国大会を、県医師会館で開催しました。翌日は、市内観光と吟行、知覧特攻基地を訪問し、詩吟を奉納しました。

また、土師城皓全国青年部長のもと、東京オリンピック記念青少年総合センターや熱海吟寮での青年部長会議、全国各地での青年部大会への参加などなど思い出はつきません。

そして私の任期は終わり、今は亡き角城禅氏へと青年部の活動は受け継がれました。今もなお全国の当時の青年部の皆さんと交流のあることは、嬉しく何よりの宝です。

中国の書に、「創業は易く守成は難し」という言葉があります。今思い起こせば、鹿児島県の青年部の立ち上げに携われたことは、幸せでした。そして、温かく見守り、ご協力頂いた本村錦香県本部長、金丸錦央事務局長はじめ多くの会員の皆様に改めて心より感謝申し上げます。

若い青年部の隆盛こそが、錦城会の将来にかかっていると思います。次の世代を担う青年部の活動に心から期待します。

「本村錦香先生の神々しい詩吟の魅力に魅せられて」　鹿児島県本部　本坊城輝

錦城会に入会して48年。素晴らしい先生や諸先輩方に恵まれ、入会と同時に青年部会員、日置市の妙円寺詣りに青年部で参加し、鹿児島市の照国神社から、伊集院町徳重神社までの20キロメートルの道のりを「明くれど閉ざす雲くらく」と1番～24番迄を唄いながら、宗家先生と私達青年部他一同、元気一杯で目的地に完歩（伴奏者の金丸先生に感謝）まるで昨日のことの様に、思い出します。（昭和54年10月実施）妙円寺詣りとは、関ヶ原の戦いの島津義弘公を偲ぶ行事です。

滋賀県青年部と鹿児島県青年部で、平成8年5月3日（金）に、合同温習会を知覧町で実施した後に、全国から集まる特攻隊員遺族の知覧特攻戦没者慰霊祭において、本村錦香先生と滋賀県青年部の皆様で献詠され、遺族席からは、涙する姿を目にし、本当に充実した一日を過ごしました。

鹿児島県本部は、若い世代を応援するために、師範大会や初吟会に青年部の枠を作り、発表の場を設けております。私たちも高齢者の仲間に入る年代になりましたが、心は常に青春をモットーに頑張ります。

「私の青年部長時代」　鹿児島県本部　舘林錦鴻

私が前青年部長・本坊さんより部長を引き継いだのが、平成15年。それから平成24年までさせて頂きました。それまでも、青年部全国大会（大阪・滋賀・福岡・長崎等）、県本部青年部温習会には、毎年参加し、その中でも函館での青年部フォーラム、鹿児島での九州地区青年部大会は、とても印象に残っています。

私が青年部長時代は、青年部全国大会はありませんでしたが、毎年、各県において全国青年部長会議があり、その後、温習会等が行われ、鹿児島県におきましても、会議の後、県の青年部温習発表会に全国の青年部長さん方に参加して頂きました。

県本部長をはじめ、先生方のご理解とご協力により、年一回、青少年部温習会、県の師範発表会に青少年部コーナー等設けて頂き、感謝しております。

会員も少なくなり、青年部の活動も大変だと思いますが、全国には青年部と言われる会員さんもいらっしゃると思いますので、何らかの形で交流できる事を願っております。